

トラック輸送情報（平成23年9月分）

平成23年12月7日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

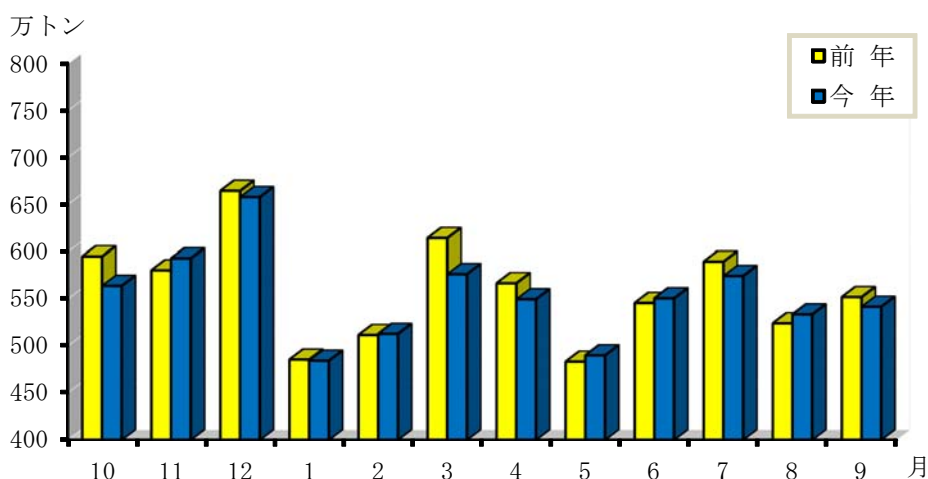
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

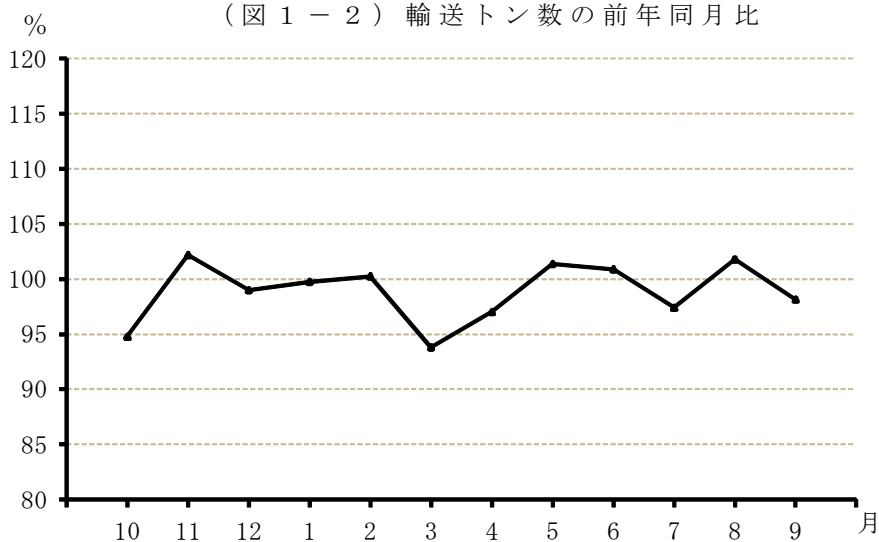
調査対象26社の本月の輸送量は、5,420,928トンで、前月と比べ総輸送量が約8万トン増加したため、前月比101.5%（季節調整済み96.8%）となり、前年同月との比較では、約10万トン減少したため、前年同月比98.1%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は22.3日で、前月と比べ0.6日減少し、前年同月との比較では、1.2日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、243,091トンで、前月と比べ約10千トン増加したため、前月比104.3%となり、前年同月との比較では、約8千トン増加したため、前年同月比103.3%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



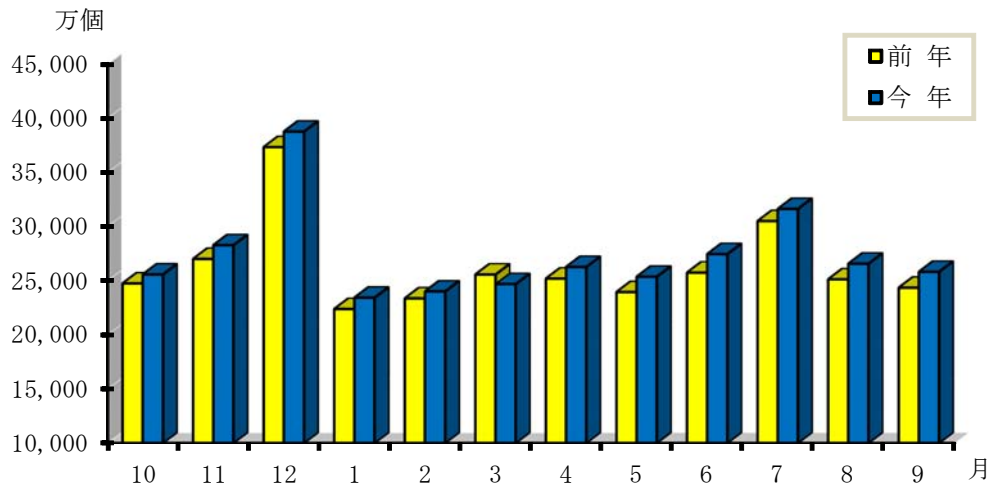
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



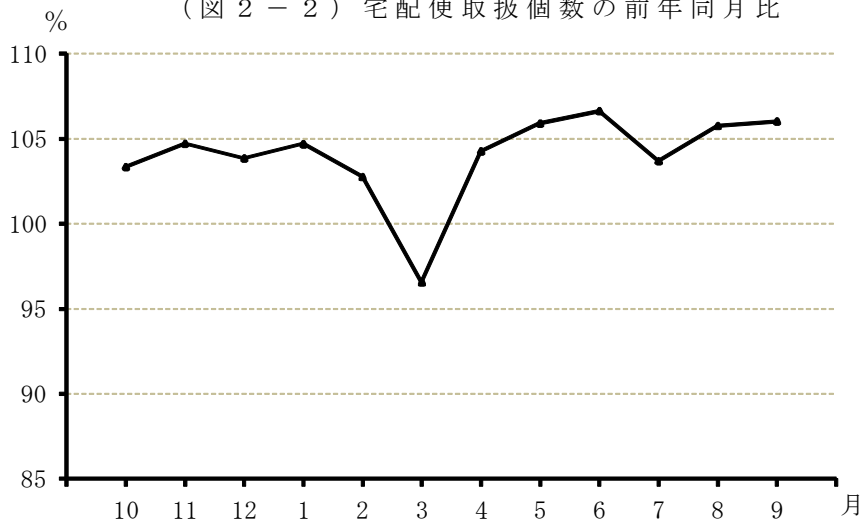
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、258,355 千個で、前月と比べ 約 751 万個減少したため、前月比 97.2% (季節調整済み 97.6%) となり、前年同月との比較では、約 1,468 万個増加したため、前年同月比 106.0% の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (図表 1 参照)

前月と比べると、「農水産品」及び「その他」の品目を除き輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が共通して見られたほか、倉庫から出る貨物増が「化学工業品」、「日用品」で見られた。

前年同月と比べると、工場・生産地からの貨物増が「機械」、「化学工業品」で見られた一方、商社・問屋からの貨物減が「日用品」で見られた。「機械」、「化学工業品」の主な増加地域は北陸信越、大阪、近畿等で、「日用品」の主な減少地域は全国であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	3	10	2	2	果物	中国	4
	金属製品		6	14	1			関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	機械		7	12	2		機械部品	東京、神奈川、北陸信越、中部地方、兵庫、中国	4
	化学工業品		6	15	1		合成樹脂		4, 7
	繊維工業品	1	5	16			その他の繊維工業品	関東地方、中部地方、大阪、兵庫	4
	食料工業品		4	15	1		製造食品、飲料		
	日用品		10	9	3		書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、中国、九州	4, 5, 7
	その他		4	12	3	2	宅配便、その他(百貨店配送品)		8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	12	2	1		関東	4
	金属製品		4	15	2			東京、北陸信越、中部、兵庫	
	機械		6	11	2	2	機械部品 その他の機械	北陸信越、大阪、近畿 東北	4
	化学工業品		5	14	3			中国	4 7
	繊維工業品		4	15	3			神奈川、北陸信越、近畿地方	
	食料工業品		3	14	3				
	日用品		3	13	5	1	書籍・印刷物、衣服	全国	5
	その他	1	3	10	6	1	その他(百貨店配送品)	関東、全国	2, 4

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 802 社／調査対象事業者数 1,049 社）の輸送量は、前月比 103.4%、前年同月比 102.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	102.5 %	108.0 %	100.2 %	98.4 %	103.0 %	99.1 %	97.6 %	101.2 %	101.2 %	102.7 %	101.2 %	
前 月 比	103.4 %	103.3 %	103.6 %	103.6 %	102.2 %	105.7 %	105.3 %	106.5 %	100.0 %	102.5 %	98.2 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比103.3%、対前年同月比108.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「野菜・果物」、「畜産品」、「水産品」、「その他石油製品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、倉庫への入出庫の増加等により「動植物性飼・肥料」が、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増等により「化学薬品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物減等により「木材」、「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比103.6%、対前年同月比100.2%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」が、建設関連の需要増等により「木材」が、景気回復の兆し等により「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比103.6%、対前年同月比98.4%であった。品目別では、建設関連の需要増により「金属製品」が、季節的需要増により「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比102.2%、対前年同月比103.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の見通しは、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比105.7%、対前年同月比99.1%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の農産品」が、建設関連の需要等により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響により「その他の窯業品」が、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比105.3%、対前年同月比97.6%であった。品目別では、電材関連や樹脂関連の稼働増により「化学薬品」が、季節的需要増や期末決算による出荷増により「日用品」が、工場・生産地からの貨物増等により「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「金属製品」、「食料工業品」が、建設関連の需要減等により「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比106.5%、対前年同月比101.2%であった。品目別では、季節的需要増等により「その他の農産品」、「化学肥料」が、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響等により「木材」が、天候の影響等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月はほぼ横ばい傾向、以降については減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比100.0%、対前年同月比101.2%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増等により「機械」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい傾向、以降については増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比102.5%、対前年同月比102.7%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増等により「鉄鋼」、「その他の製造工業品」が、季節的需要増等により「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、建設関連の需要減等により「セメント」が、天候の影響や季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比98.2%、対前年同月比101.2%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増により「機械」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減等により「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月は減少傾向、以降については増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	5	4		2			2	1	3		17
	減	1	1					1		3		6
2. 野菜・果物	増	5	3		1				2	3		14
	減	1	4	1			1	1	1	6		15
3. その他の農産品	増	1				1		2			1	5
	減	1							1	1		3
4. 畜産品	増	3								1		4
	減											
5. 水産品	増	4			2		1				1	8
	減				1	1						2
6. 木材	増		3		1							4
	減	2			1			2		1	2	8
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1										1
	減	1	1		1							3
9. 金属鉱物	増		1							1		2
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	7				2		3		3		15
	減	5	1					1		1		8
11. 工業用非金属鉱物	増	2	1					1		2		6
	減	1	1						1			3
12. 鉄鋼	増		1					2		4		7
	減							2		2		4
13. 非鉄金属	増	1			1			1				3
	減		1									1
14. 金属製品	増		2	1	2	1				4	1	11
	減				1	2	2	2			1	8
15. 機械	増		1	1	3	2	1	2	2	2	1	15
	減	1			1	2	2	1		1		8
16. セメント	増	3	1		2	1				1		8
	減	1				1				4		6
17. その他の窯業品	増	1	1							1		3
	減		1		1	1	2					5

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増		1									1
	減		1						1			2
19.その他の石油製品	増	2	1		1				1			5
	減		1		2		1			1		5
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21.化 学 薬 品	増	2			1		2					5
	減		1									1
22.化 学 肥 料	増	1	1		1			2	1			6
	減	1			2							3
23.その他の化学工業品	増							1	1	2		4
	減				1					1		2
24.紙 ・ パ ル プ	増				2		1	1	3	2	1	10
	減	2	2			1		1				6
25.織 維 工 業 品	増				1							1
	減								1			1
26.食 料 工 業 品	増		2					2		4		8
	減	4	5	1	4		3	4	3	7	1	32
27.日 用 品	増	1	1				2	1		1	2	8
	減	1	1	1	1					1	1	6
28.その他の製造工業品	増		1	1			2	1		3		8
	減		1	1	1			1				4
29.金 属 く ず	増											
	減									1		1
30.その他のくずもの	増											
	減									1		1
31.動植物性飼・肥料	増	6	1	1					1			9
	減	3			1		1			2		7
32.廃 棄 物	増				1			2				3
	減							2				2
33.輸 送 用 容 器	増	1			1				1	1		4
	減								1		1	2
34.取 り 合 せ 品	増		1					1				2
	減		1					2		1		4
35.そ の 他	増		2	3	2	2	3	3		3		18
	減		1	2		1	2	4	1		1	12